

長期管理に由来する社会心理问题について

小児腎疾患の長期管理における運動・食事・社会心理に関する研究 長期管理に由来する社会心理问题について

酒井 糾

学校検尿の普及に伴い小児腎疾患の発見のされ方や医療レベルにのせる疾患内容が随分と変わって来た。特に検査法の進歩が、対象年齢に応じた疾患に適応したものを選ぶ必要性を浮き彫りにした。そしてそれらの変化に呼応して目を引くのが管理の長期化に伴う問題である。つまり、検査・治療・管理の実施にあって必要とされる compliance、informed consent、medical decision の問題である。特に、予防医学・治療医学にあっては医学判断学の領域で解決しなければならない問題が山積し始めている。その中でも、患者および医師の心理的ならびに行動科学的分析や、費用効果／便益／効用分析は今や避けて通れないテーマとなりつつある。そうした医療／医学環境にあって、受益者の QOL (quality of life) を多角的視野で把え分析を加えることは極めて意義あるものと思われる。今回の“長期管理に由来する社会心理问题について”の研究班の構成と各研究テーマは極めて時期を得たものであった。

本年度の各班員の研究は比較的、軽い症状を有する腎疾患の群と、慢性腎不全・治療群での症例に対する社会心理面からの検討が行われた。

前者において、過去3年間、検討がなされたが到底結論を得るには至っておらず、今後共討

議を重ね学校検尿が今後どのような方向に向かうべきかを明らかにする必要があると考えている。一方にあって、後者、特に、慢性腎不全の“治療の在り方”についても、各施設での経験の分析・検討が重ねられたが今後更なる検討の必要性が浮彫りにされた。特に“compliance、informed consent、medical decision”の在り方が問われる21世紀の医療にあって、小児科領域でのこの方面からの研究は必要不可欠であるばかりか今から始めておかなければ取り残される可能性もある。医療新時代に向けて新たな視点、例えば医療学の立場からの研究が極めて大切と考えている。

腎臓病に悩む小児の QOL 改善を心から期待して止まない。

各々のタイトルを以下に示す。

1. 思春期腎疾患患者の心理的問題点
～末期腎不全例と長期入院例の検討～
水野愛子 国立療養中部病院小児科
2. 慢性腎不全児の心理学的問題点について
～心理療法的観点から～
井原成男 東京慈恵会医科大学小児科
3. 腎移植児の意識調査
乾 拓郎 国立療養所三重病院小児科

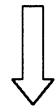
北里大学病院腎センター

4. 小児 CAPD 患者の社会復帰
酒井 糾 北里大学病院腎センター
5. 慢性腎不全小児の社会・心理的状况
星井桜子 国立療養所西札幌病院小児科
6. 学校検尿のもたらしたもの(第2報)
～管理中の無尿症候性血尿例からの評価～
長坂裕博 横浜市小児アレルギーセンター
7. 小児慢性腎疾患児の心理学的一考察
～バウムテストを中心に～
永峰 博 国立特殊教育総合研究所



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



学校検尿の普及に伴い小児腎疾患の発見のされ方や医療レベルにのせる疾患内容が随分と変わって来た。特に検査法の進歩が、対象年齢に応じた疾患に適応したものを選ぶ必要性を浮き彫りにした。そしてそれらの変化に呼応して目を引くのが管理の長期化に伴う問題である。つまり、検査・治療・管理の実施にあって必要とされる compliance、informed consent、medical decision の問題である。特に、予防医学・治療医学にあっては医学判断学の領域で解決しなければならない問題が山積し始めている。その中でも、患者および医師の心理的ならびに行動科学的分析や、費用効果/便益/効用分析は今や避けて通れないテーマとなりつつある。そうした医療/医学環境にあって、受益者の QOL(quality of life) を多角的視野で把え分析を加えることは極めて意義あるものと思われる。今回の“長期管理に由来する社会心理問題について”の研究班の構成と各研究テーマは極めて時期を得たものであった。

本年度の各班員の研究は比較的、軽い症状を有する腎疾患の群と、慢性腎不全・治療群での症例に対する社会心理面からの検討が行われた。

前者において、過去3年間、検討がなされたが到底結論を得るには至っておらず、今後共討議を重ね学校検尿が今後どのような方向に向かうべきかを明らかにする必要があると考えている。一方にあって、後者、特に、慢性腎不全の“治療の在り方”についても、各施設での経験の分析・検討が重ねられたが今後更なる検討の必要性が浮彫りにされた。特に“compliance、informed consent、medical decision”の在り方が問われる21世紀の医療にあって、小児科領域でのこの方面からの研究は必要不可欠であるばかりか今から始めておかなければ取り残される可能性もある。医療新時代に向けて新たな視点、例えば医療学の立場からの研究が極めて大切と考えている。

腎臓病に悩む小児の QOL 改善を心から期待して止まない。